

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

研究 0-1

1. 教育学部・教育学研究科

研究 1-1

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況	研究成果の状況	質の向上度
教育学部・教育学研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している

教育学部・教育学研究科

I	研究の水準	研究 1-2
II	質の向上度	研究 1-4

I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成24年度に教育総合研究所を設置し、平成24年度から平成27年度に延べ17件の研究プロジェクトを実施している。そのうち、「年齢構成の急変に対応する教員研修プログラム開発と教員養成科目の開設」プロジェクトでは、学校現場における新たな教員研修プログラムの開発や研修教材を作成し、平成28年度から実施するカリキュラムにおいて、ソーシャルスキル教育及び地域に開かれた学校づくりに係る科目を設置することにつなげている。また、これらの研究成果をシンポジウムや研究成果報告会、ウェブサイト等で公開している。
- 教員の学会等における発表件数は、平成21年度の249件から平成26年度の334件となっている。
- 福岡県教育委員会と連携し、いじめ防止等の委員会への委員派遣や、附属学校を活用したいじめ予防に資する授業案の開発等を行っており、これらの取組をウェブサイトで発信している。

以上の状況等及び教育学部・教育学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学術面では、特に教育心理学において卓越した研究成果がある。また、国際的な学術誌へ論文が掲載されている。
- 卓越した研究業績として、教育心理学の「子どもの顔認識における情報処理の特徴に関する心理学的研究」があり、研究成果が国際的な学術誌に掲載されている。
- 社会、経済、文化面では、特に芸術一般において特徴的な研究成果がある。また、第67回二紀展の準会員賞等を受賞しているほか、平成22年度に教科横断型研究開発プロジェクトを立ち上げ、福岡県教育委員会と連携して「言語活動

の充実」をテーマに共同研究を行い、その成果を学会等で発表するとともに実践向け手引書を作成し、福岡県内の全小学校と教育委員会等に配布するなど、研究成果を地域に還元している。

- 特徴的な研究業績として、芸術一般の「油彩画表現の研究」や「空間における鉄を用いた造形思考」がある。

以上の状況等及び教育学部・教育学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、教育学部・教育学研究科の専任教員数は 184 名、提出された研究業績数は 32 件となっている。

学術面では、提出された研究業績 26 件（延べ 52 件）について判定した結果、「SS」は 1 割未満、「S」は 4 割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績 7 件（延べ 14 件）について判定した結果、「S」は 9 割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1 件の研究業績に対して 2 名の評価者が判定した結果の件数の総和）

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 24 年度に教育総合研究所を設置し、現代的な教育課題について総合的な研究を推進する体制を整備しており、平成 24 年度から平成 27 年度までに「本学入学者の夢を実現する初年次教育プログラムの開発」等、延べ 17 件の研究プロジェクトを実施している。
- 学会等における発表件数は、平成 21 年度の 249 件から平成 26 年度の 334 件となっている。
- 科学研究費助成事業の採択状況については、平成 21 年度の 41 件（約 5,140 万円）から平成 27 年度の 60 件（約 7,870 万円）となっている。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度に教科横断型研究開発プロジェクトを立ち上げ、福岡県教育委員会と連携して「言語活動の充実」をテーマに共同研究を行い、その成果を学会等で発表するとともに実践向け手引書を作成し、福岡県内の全小学校と教育委員会等に配布するなど、研究成果を地域に還元している。
- 教育心理学の「子どもの顔認識における情報処理の特徴に関する心理学的研究」等の優れた研究業績があり、国際的な学術誌への論文掲載や日本機械学会等の各種学会で論文賞を受賞している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。